

義肢装具体験イベント 開催報告書

vol.02
2017.2

第2回 『義肢装具体験イベント』

第2回となる「義肢装具体験イベント」を、平成29年1月14日(土)に東京都中野区立第二中学校にて開催いたしました。

当日は、学校公開の場を利用して1時間目～4時間目までの時間割で、

- ①「義肢装具士と、その仕事とは(講義)」
 - ②「義肢・装具の装着体験」
 - ③「義足ユーザーとの交流」
 - ④「パラリンピアンによる講演」
- の4つのプログラムを、中学校1年生～3年生の生徒と特別支援学級、保護者、教職員を対象に実施いたしました。

主なプログラム

各学年約80名、特別支援学級約20名、総勢約260名の生徒達に、(一社)日本義肢装具士協会 東日本支部から総勢15名がスタッフとして対応しました。それぞれのプログラムについて解説いたします。

講義

「義肢装具士と、その仕事とは」

学年毎に、障がい者とその方々を支援する義肢装具士の職業について、理解を深めてもらう事を目的に講義をしました。

イベント開催前に、義肢装具についてまとめた資料を生徒に配布してもらい、基礎的な知識を理解してもらったうえで講義に臨んでもらいました。

講義中にはスライド内容に合わせて、義肢と装具を提示したり生徒に回覧して、より具体的にイメージしてもらえる構成にしました。装飾義手のグローブのリアルさに、驚きの声が挙がっていました。

講義に続いて代表の生徒をモデルに短下肢装具の採型デモンストレーションを実施しました。ほとんどの生徒が初めて見る採型作業に興味津々に見入っていました。

質疑応答では義肢装具や義肢装具士に関する沢山の質問があり、活発な意見交換が行われました。



<講義の風景>



<生徒への採型デモンストレーション>

義肢・装具装着体験

体験用装具や模擬義足、高齢者疑似体験キットや片麻痺体験キットを装着し、「障がい者・高齢者の動作」や「切断者の義足歩行」を体験して、「障がい者・高齢者」の身体的負担を体感することで、その理解とボランティアマインドの育成を目的としました。

短下肢装具を装着しての歩行や、高齢者・片麻痺者の疑似体験用装具を装着してマットから立ち上がったたり、模擬義足を装着して生徒同士で支えあって歩いたり、多くの生徒達は初めての体験に驚きと身体的負担の大変さを感じていました。転倒等の危険性もあることから、スタッフや教員による補助と見守りを徹底しました。



＜模擬義足での歩行体験＞



＜短下肢装具での歩行体験＞

パラリンピアンによる講演

ボート競技の選手であり、リオパラリンピックに日本代表として出場された、パラリンピアン 駒崎 茂氏をお招きしました。40歳の時に交通事故で両足を失い、リハビリで始めた水泳がきっかけで全国障がい者スポーツ大会で優勝を果たしました。その後、48歳でボート競技を始め、2014年仁川アジアパラリンピック大会で銀メダル、2016年リオデジャネイロパラリンピック大会出場を果たされました。

講演は、「障害を乗り越えて～ボート選手として参加したリオパラリンピック～」をタイトルに、パラリンピックへの出場経験についてと、どのような場面で、どのような方々(職種)に、どのような支援を受けたのか等、駒崎氏のパラリンピック出場を支援された方々についてお話いただきました。

駒崎氏は、日常では自らの障がい体験をもとに、患者に寄り添う医療ソーシャルワーカーとしても活躍されています。



＜駒崎氏の講演風景＞



＜講演者の駒崎氏＞

義足ユーザー交流

下腿義足義足ユーザーの方に協力して頂きました。ユーザーと交流することにより、実際に会う事や言葉を交わす事で「障がい者」理解を深めてもらう事を目的としました。交流では、義足歩行や走行、バスケット部の生徒とのマッチアップなどのパフォーマンスもおこなってもらいました。生徒はユーザーのパフォーマンスを目の当たりにして、想像を超える活動度に認識を一変したようで、義足が見えなければ切断者と分からないと感想を述べていました。

ユーザーとの質疑応答では、生徒からは日常生活に関する疑問点や、義足で不自由な事について等の質問が挙がりました。



＜義足ユーザーとの質疑応答場面＞



＜バスケットのマッチアップ＞



総括

今回2回目となる「義肢装具体験イベント」を開催しましたが、多感な年代の子供達に障がい者とその方々を支援する義肢装具士の業務を伝える事は、「障がい者理解」や「ボランティアマインドの育成」、「義肢装具士の理解と将来の職業選択」に通じる、非常に大切な啓発活動であると考えます。

当協会では、これからも積極的に公益目的事業に取り組んで参ります。